

六ヶ所村長選挙山田きよひこ元気に第一声！

小雨模様の7日午前9時、予定通り、山田きよひこ候補の街頭演説第1声が六ヶ所村内に響き渡りました。

街頭演説会は六ヶ所村役場前に県内各地から駆けつけた約40名が聞き入り、熱気に充ち溢れました。

鳴海清彦・六ヶ所村に新しい風をおこす会会長のあいさつではじまり、各政党、労働組合他、各界、各層からの連帯のあいさつがありました。まさに非自民勢力が総結集する理想的な闘いの構図ができました。

山田きよひこ候補の力強い決意表明があり、選挙本番へと突入しました。

その後選挙カーは村内一巡へ向けてスタートし、参集した支援者は公営掲示板へのポスター貼り、法定チラシへの証紙貼りなどを行いました。

勝利と言う二文字は決して夢ではありません。山田村政誕生を信じて最後まで頑張りましょう！



連帯の決意を述べる地元代表の種市信雄さん(右)と菊川慶子さん(左)



【今後の遊説スケジュール】

●9日(木) 村内南部・倉内、平沼、千歳平を重点に街頭演説20カ所。北部、中部は流し運行。

●10日(金) 村内中部・尾駸、戸鎖、二又を重点に街頭演説20カ所。南部、北部は流し運行。

●11日(土) 村内全域・街頭演説10カ所程度、午後7時45分頃より選挙事務所前で最終演説。

◆8日は村内北部・泊、出戸、石川を重点に街頭演説を住宅街200m間隔で実施、南部と中部は流し運行でした。

◇8日の遊説メンバーの感想です

- ・自動車での通りすがりに手を振っていく方が結構多い。
- ・自転車に乗ってきた方が手を振っていった。
- ・昆布干し作業の人が背中を向けたまま手を振ってくれた。

【選対本部からのお願い】

- ① 選挙戦最終日(11日)、選挙カーへの随行車と同乗者を募っています。時間がとれる範囲でご協力お願いします。また、最終演説の聴衆も多いと嬉しいです。
- ② 投票日(12日)は午後7時30分頃より選挙事務所で開催見守り待機集会を行います。ぜひご参加ください。



選挙徒然日記

本日6月5日(日)は、六ヶ所村内の千樽地区や二俣、出戸、泊、室久保などで街宣を行った。車から手を振ってくれる人や庭や畑などから手を振ってくれる方がいて、その度に驚き、喜んだ。4年前よりも全然反応が良いのだ：なぜだ？

ある地区で山田清彦さんが「六ヶ所村の方々が被ばく労働をさせられ、身体を壊しているという話もある」という話をしていて、最後に、電動車イスの方が近づいてきた。

「被ばくして身体を悪くしてる人があつちにもいるんだ。もっともつとあんなたちの活動を拡めてくれ」と言っていて、車イスで去って行った：衝撃だった。

「こんな村人の直接の反応など初めてだ：もしかしたら、この方も何か被ばく労働をさせられた経験があるのだろうか」

今日この街宣によって得られたものは、とてつもなく感動的だが、しかし、どうしようもないほど重たい事実でもあった。

変えないとダメだ。六ヶ所村を、青森県を、いや、日本を変えなければ：最下層の人間たちが、日々被ばくしているのだ：そんなことが許されてきたのだ。このままでいいはずがない。

◆◆◆再処理工場～トラブル続きで2022年度稼働は困難◆◆◆

「早く終わりたいがために、この程度でいいだろうという気持ちでやっている」。9月の原子力規制委員会定例会合で、原子力規制庁の審査担当者は、核燃料サイクルの施設を担う日本原燃（原燃）を批判した。

原燃は当初、再処理工場（青森県六ヶ所村）などの稼働に必要な設備の設計や工事計画の審査で、耐震性を決める際に10年以上前の地盤データを使った。

だが規制庁は認めず、原燃が新規規制基準の審査で使った

データで再計算すると、地震時の揺れは当初想定の1.4倍以上に上がった。規制庁の審査担当者は「（これまでの）半年分の審査が振り出しに戻った」とあきれられる。

1993年に着工した再処理工場は、トラブル続きで25回も完成を延期。原燃は2022年度の稼働計画を崩さないが、「普通に考えて難しい」と規制委の更田豊志委員長は7月の記者会見で指摘した。核燃料サイクルは担い手の力量不足が深刻な状況にある。

再処理事業の現状

未 日本原燃の再処理工場
(青森県六ヶ所村)



全国の原発から使用済み核燃料を受け入れて再処理を進める

1993年4月着工し、当初は97年に完成する予定だったが…

トラブル相次ぐ

完成延期は25回に上り、今は2022年度上期の稼働を計画

建設費は当初の4倍の3兆円超

費用は膨れる可能性

廃 日本原子力研究開発機構
東海再処理施設
(茨城県東海村)



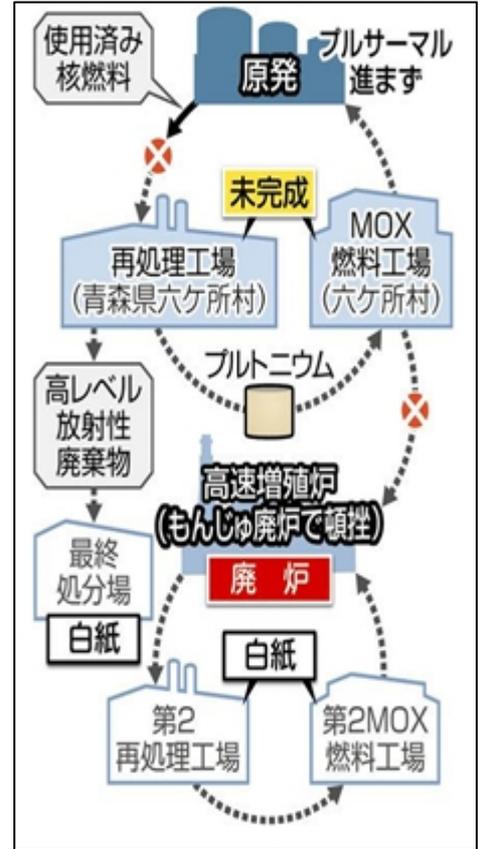
原発や新型転換炉ふげんの使用済み核燃料約1140トンを再処理

1977年9月～2007年5月に運転し、2018年から廃止作業も…

極めて放射線が強い廃液(核のごみ)のガラス固化が進まず

廃止費用は国費1兆円、期間は70年

核燃サイクルの現状

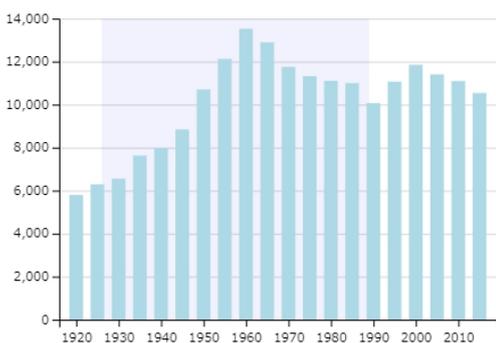


東京新聞 2021/11/7 付より転載

《六ヶ所村豆知識》

1889年（明治22年）4月、町村制の施行により、倉内村、平沼村、鷹架村、尾駁村、出戸村、泊村の6つの集落が合併して六ヶ所村が発足。

●六ヶ所村の人口推移



《六ヶ所村は縄文遺跡の宝庫です》

六ヶ所村の南半分は大小の海跡湖沼が並び、縄文海進期には海であったと推定されるように、豊かな自然環境に恵まれ、“縄文文化の宝庫”として注目されている。

縄文時代は草創期から晩期まで各時期とも万遍なく遺跡・遺物が発見され、県内でも特異な存在として認められている。

富ノ沢・上尾駁・大石平遺跡など縄文時代を代表する遺跡群が見つまっている。これらの遺跡群は残念ながら、核燃施設の敷地内にあり、残念ながら囲いで仕切られて中に入ることが出来ないのが現状。

特に富ノ沢遺跡は縄文中期では日本最大級の集落で、丘陵の南東斜面の標高63～73mに位置し、竪穴住居址約500軒・土壇約900基のほか配石遺構・屋外炉・掘立柱建物址などが環状に配置された状態で発見されている。昭和63年から平成2年まで実施された結果、見つかった大規模環状集落は一時期でも50～100軒の規模にのぼり、青森市の三内丸山遺跡同様、全国的にも注目されていると云う。



左：鼻曲がり土面
右：赤漆切断彩色壺型蓋付土器